

### Buddhist ruins exploration record at silk road シルクロード仏教遺跡探訪記

6日目【2000年4月19日】

無事、宝鷄着〈西安～宝鷄〉前半

今日、西安を出立した。ホテルをチェックアウトする時、お世話になったホテルのスタッフの方にお礼を伝え、次の滞在都市のホテル予約をお願いしてみた。フロントで正規の業務としては出来ないらしく、彼女はホテル内の自分の部屋に帰って予約を入れてくれた。旅先で出会った人の親切に感謝し、ホテルを出た。



西安駅の改札口

本日の目的地は西安から西に3時間あまり行った、農林業の盛んな宝鷄という田舎町。駅に行くと、私が乗る列車はもう行列が出来ていた。指定席なのに何故並ぶのかと不安な思いで乗り込むと、列車内は歩けないほど人がいた。大混雑の人混みをかき分けないと前に進めず、重い荷物を持っているので大変だった。自分の席へ到着するだけで疲労困憊。ようやく到着するも、私が予約した席には、他人が座っているではないか! 「ここは私の席だ」と言っても知らん顔。私も負けずに、切符を見せて、日本語で強く言うと、渋々退いてくれた。興奮と疲れと、安堵の気持ちからか、体の力が抜けていくような感じだった。



列車内の向かいの席の人



列車内の隣の席の人

こんなに人が乗って身動きが出来ないのに、そこを物売りが何回も通る。荷物棚に置いた旅行鞆にはチェーンロックをかけ、盗まれないよう、常に気を付けていた。

### 住職レター

年末を迎え、慌ただしくされていることでしょう。大掃除、年末の挨拶周り、年賀状の作成。そして私には、最後に大仕事があります。除夜会法要の読経と、除夜の鐘つき。除夜の鐘は、大晦日の深夜0時をはさんでつく鐘のこと。ちようど日付けが変わり、新しい年になる時を鐘をつきながら迎えます。

人には百八つの煩惱があると言われ、その煩惱を滅すために、除夜の鐘を百八回つきます。煩惱とは、人の心を惑わせたり、悩ませ苦しめたりする心のはたらきのこと。代表的な煩惱は、①欲望、②怒り、③執着、④猜疑。

なぜ煩惱の数は百八つとされているのかは、諸説あります。百八という数が、『沢山』という意味だというのが、一般的でしょうか。私になるほどと思った説は、人間が持つ欲望や心の汚れは、六つの感覚器官(眼・耳・舌・鼻・身・意)からもたらされ、それらが感じとる感覚からくる三十六個の煩惱に、前世、今世、来世の三つの時間軸をかけて、百八つあるという考え方。ようするに、私たちの煩惱は、たくさんあって、際限ないといことでしょう。

あまり知られていませんが、梵鐘の鐘の回り(上部)に突起があります。これは「乳(ち)」と言われるもの。この「乳」の数も百八つあります。

古より、梵鐘の鐘の音そのものには、苦しみや悩みを断ち切る力が宿っていると考えられてきました。梵鐘の澄んだ音は、深夜の空気が相まって心にしみわたり、私たちの魂が共鳴するような気持ちにさせられます。

除夜の鐘、つきに来て下さいね。



鐘樓堂 1741年(寛保元年) 建立



鐘の回りにある「乳」という突起



Buddhist ruins exploration record at silk road  
シルクロード仏教遺跡探訪記

6日目【2000年4月19日】 全37日間  
無事、宝鷄着〈西安～宝鷄〉後半



宝鷄駅

列車内では皆飲食をしていた。食べ終わった物は、列車の窓から投げ捨てていた。窓から顔を出して、平然と痰も吐き出していた。隣の人はお構いなしにタバコを吸い、灰や吸殻もその辺に捨てていた。現代の日本人からは考えられないようなエチケットである。想像を超える状況に、カルチャー・ショックに襲われた。駅に到着すると、日本では「〇〇駅に到着しました」とアナウンスがある。こちらでは、そんな気の利いたアナウンスは無し。

目的地の駅で降りられるのか、不安だった。幸い、出発時の騒ぎが功を奏したのか、周りの人に切符を見せていたので、降りる手前で教えてもらえた。

3時間の列車の旅を終え、無事に宝鷄駅に到着。この疲れを癒すべく、タクシーで直ぐにホテルへ向かった。チェックインを済ませ。部屋の電話回線からインターネットに接続。まだネット接続できるようだ。ここ宝鷄には、2日間の滞在予定。

唐の時代に玄奘三蔵は、長安（現・西安）から苦難の旅に出た。馬か牛車だろうから、ここまで来るのに何日もかかったことだろう。私は、楽にシルクロード鉄道で来たが、正直、もう挫けそうだ。



宝鷄の町



宝鷄の町

「宗祖聖人月忌」  
「門信徒祥月命日法要」(善教寺本堂)  
一月 十六日(木) 午後一時半～  
\*毎月十六日に本堂において勤めております。

「御正忌」(善教寺本堂)  
一月 十一日(土)  
午前十時～ 朝席  
午後一時半～ 昼席  
午後三時半 法要終了



「元旦会」(善教寺本堂)  
一月 一日(水) 午前七時～

「除夜会」(善教寺鐘樓堂)  
十二月三十一日(火)  
午後十一時四十五分～  
\*鐘樓堂にて除夜の鐘を撞きます。

今後の法要スケジュール